

令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した取組 行田市教育委員会

1. 行田市学力向上推進委員会の実施

本市では、各校の学力向上推進担当者を委員とする行田市学力向上推進委員会を組織し、学力向上に向けた協議を実施している。今年度は、主体的・対話的で深い学びの授業実施に向けた教員用の教材である「うきしろスタンダード」の改訂を行った。その際、タブレット等のICTを活用した授業や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業づくりのポイント等についても協議を行い、示すこととした。その際に出された意見は、以下に示すとおりである。完成版を令和5年度末に各校に配付し、令和6年度より授業づくりの視点としていく。

導入	<p>「問い」や「思い・願い」を引き出し、学習課題を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ～なのでしょう。 ・なぜそう思ったの。 ・本当にできるのかな。 ・～は、全てにあてはまるのかな。 	<p>1. 「問い」の引き出しと問題の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の興味関心を大切にした「問い」や「課題」を設定する。 ・様々な資料を比較したり、関連付けたりする。 ・既有的知識を利用し、与えられた文章・図等を理解する。 <p>【活用例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆学習資料（動画等）の拡大提示装置での提示（学習者機への提示） →導入の説明を明確化するために画面共有 ☆共同編集ファイルの作成と共有 →気付きや考えの記入し、グループ学習 ☆カメラ機能の活用 →情報収集や記録の手段として活用
	<p>課題の追究・解決の見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習したことで、使えそうなことはないですか ・解決するために、どんな工夫ができそうですか。 ・～は、どんな動きをするのかな。 	
展開	<p>課題の追究・解決に取り組ませる。（ペア・グループ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうやって考えたのかな。 ・もう少し詳しく聞かせてください。 ・似ている考えを集めてみよう。 ・～さんと～さんの意見はどこが違うのかな。 	<p>2. 問題の解決・共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説や見通しに基づいて問題を解決する。 ・課題解決の方法や学習の進捗を児童生徒が設定できるようにする。 <p>※学習の孤立化を防ぎ、深い学びの実現を促すため、個別での学習だけでなく、協働して学習に取り組む場を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の解決方法を知り、自分の解決方法との共通点・相違点を理解する。 ・他者の意見を参考にしながら、自分の考えや解決方法を見直したり、深めたりする。 <p>【活用例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ホワイトボード機能の活用（共同編集） →付箋機能を用いて、お互いの意見を共有し合う。 →互いの意見を比較・分類・関連付けをする。 ☆拡大提示装置で学習者機を全体へ提示（学習支援ソフトの活用） →様々な考え方を全体ですぐに確認。全体の考えをまとめる。
	<p>課題の追究・解決をより深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～と～を比べて考えるとどうですか。 ・～の視点から考えるとどうですか。 ・言い換えるとどういうことかな。 ・～と～をまとめるとどうなりますか。 	
終末	<p>ねらいと対応して自分の言葉で振り返らせ、新たな学びへの意欲付けを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出た意見の中でどれが一番納得できましたか。 ・まとめると、どういうことですか。 ・今日の学習で分かったことは何ですか。 ・日常生活に使えると思ったことはありますか。 ・もっと調べてみたいことはありますか。 	<p>3. 問題の熟考と学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決して得られたことや解決方法の過程及び結果について振り返る。 <p>※振り返りの視点を示し、成長を実感できる効果的な活動とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめから新しい情報や問題点・視点の共有と次の学びへ接続する。 <p>【活用例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆アンケート機能や小テスト機能の活用 →学習を受けて、児童生徒の考えを集約し、次の学習に生かしていく。 →学習内容の定着や発展的な考え方を広げられるよう、適用問題を作成し、学習内容の定着状況を確認する。

2. 各学校における実践例

実践例1

- 教科名 生活科（小学校第2学年）
- 单元名 「うごく うごく わたしのおもちゃ」
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた工夫

自分で製作したおもちゃが動く様子を毎時間タブレットに録画し、それを見直すことで学びの成果について確認することができるようにした。児童は各自でおもちゃの工夫を考える際に、前時に撮影をした動画を確認することで、スムーズに活動を始めることができた。また、その動画を他の児童と見合うことで、児童同士の意見交換が活発となり深い学びへとつなげることができた。さらに、ICTを活用するとともに児童が個人で試行錯誤ができる場（おもちゃが走ったり、飛んだりしたときの距離を測定できる）や様々な材料を用意することで、児童一人一人が課題に沿って意欲的に学習を進めることができた。

製作したおもちゃを記録に残す



実践例2

- 教科名 社会科（小学校第5学年）
- 单元名 「水産業のさかんな地域」
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた工夫

児童からの水産業に関する疑問をもとに単元計画を作成し、学習課題を設定し、その課題解決に向けた学習方法を児童一人一人が選択できるようにした。インターネットや図書資料、資料集を各自で選択するだけでなく、個人で取り組むのか、少人数グループで取り組むのかといった学習形態についても選択することで、自身に合った方法で学習に取り組むことができた。これにより、児童の学習に対する意欲が高まり、新たに生じた疑問についても積極的に調べる姿が見られた。教師は、児童の学習の進捗を確認しながら、個別に指導をすることはもちろん、学習漏れがないように必要に応じて全体で共有する時間を設定した。

課題解決の方法を選択して、学習に取り組む

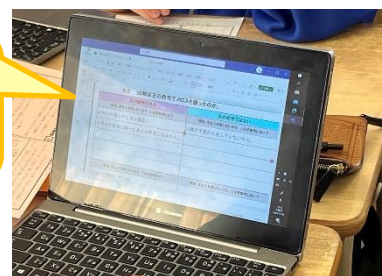


実践例3

- 教科名 国語科（中学校第2学年）
- 单元名 「物語の空所を読み、自分だけの物語を書こう」
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた工夫

生徒が意欲をもって学習に取り組むことができるよう、生徒が教材に対して感じた疑問をもとに学習課題を設定した。生徒は課題を解決するために個人もしくは少人数グループを選択して、学習に取り組めるようにした。MicrosoftのTeams上に「国語教室」というフォルダを作成し、その中には前時までの学習の要点が保存してあり、閲覧することが可能である。また、生徒が学習課題に取り組む中で、参考にした叙述や考え方の視点を「ヒントルーム」に書き込めるようにしてあり、それを他の生徒が必要に応じて参考にしてできるようにした。これによりつまずきを感じている生徒に効果的な支援を行うことができた。

「ヒントルーム」に自分の考えを入力する



今年度の実践例を他の小・中学校に周知するとともに、「改訂版うきしろスタンダード」を活用した授業改善を図り、児童生徒一人一人の学力向上につなげていく。